

○事業所名	児童発達支援andまほら。		
○保護者評価実施期間	2025年11月1日	~	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)
○従業者評価実施期間	2025年11月1日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること  ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等
1	経験豊富な職員がいることで様々な視点から児童を観察し、連携しながら支援にあたっている。	・児童を考察し、支援方法を考えている。 ・身体の土台を意識し、それぞれの専門性を活かしながら活動内容を考えている。対応や児童、保護者の状態について共有し、支援の質を高めている。
2	「お子さんと一緒に、一緒に、つなげたい」気持ちを育むことができる。 ・小集団だけでなく、個別での活動を取り入れ、本人の困り感や能力を伸ばせるよう支援にあたっている。	・お子さんや保護者の希望に合わせた支援内容の提供や、幼稚園・保育園と児童や保護者の様子の情報共有の場を設け、一貫した支援になるよう努めている。
3	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共有を行っている。	電話やLINEを用いて保護者の方が時間を気にせず気軽に連絡が取れるようにしている。写真も配信し、様子がわかるようにしている。

	事業所の弱み（※）だと思われること  ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等
1	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が希薄であること。	保護者が参加できる行事が少ないこと。
2	保育所や幼稚園、こども園との交流やそのほか地域で他の子どもと活動する機会が少ないこと。	地域の公園で活動はするが、その他イベント等に参加する機会が少ないこと。
3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が十分ではないこと。	通路やトイレなど狭い部分もあり、転倒の危険もある。

2025年11月30日
5
2025年11月30日
5

さらに充実を図るための取組等
・固定職員以外の職員も入り、支援にあたり、児童一人ひとりの把握をしていく。
・活動記録や活動内容についてアイディアをだし、子ども達へのアプローチ方法について検討していく。 ・活動内容で何度も、保護者に伝えていくこと、関係性を築いていく。希望があれば支援内容に組み込んだり、 希望に沿った支援方法の提案をしていく。
モニタリングの面談以外にも、送迎時など日頃から様子や困りごとを共有している。

改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
保護者が参加できる行事を企画する。
地域のイベントや交流の機会を調べ、より多くの機会を提供する。
・ベビゲートにて開閉し、児童と一緒に移動を行う。滑りやすい箇所にはカーペットを敷くなど対策を行う。